

2章

福祉・介護の仕事・資格・進学ガイド

ここでは福祉・介護の仕事を次のように大きく3つのカテゴリーに分け、それぞれの仕事、職場、資格、進学先などを説明します。

また、15Pに福祉・介護業界の仕事を一覧できる図も添付します。そちらも参考にしてください。

取材・文／荒尾貴正（本誌編集デスク）

I 相談援助の仕事

II 介護の仕事

III 保健医療の仕事

I 相談援助の仕事

問題解決のために あらゆる可能性を探る

のは、自治体の相談窓口かもしない。確かに仕事は市民の相談を聞くことから始まることが多い。しかしカウンターに座って話を聞くことが仕事だと思ったら、それは誤りだ。

相談援助の仕事は市町村役場や各種福祉施設、社会福祉協議会、NPOなどで行われている。この職種の総称はソーシャルワーカーだが、生活保護の担当者は「ケースワーカー」と呼ばれることが多い。一般的には、「職員」「相談員」と呼ばれる場合が最も多い。呼び名に特に決まりはなく、職場ごとに仕事の範囲や役割も異なる。

社会福祉士や精神保健 福祉士を目指そう

専門員)は介護における、介護保険制度に則った相談援助の仕事である。

資格・学校

福祉の仕事の守備範囲は、関連する法律からイメージすることができる。福祉六法といつ法律があり、それは生活保護法、児童福祉法、母子及び寡婦福祉法、老人福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法を指す。福祉における「相談援助の仕事」とは、こうした分野の仕事だ。

「相談援助」という言葉からイメージする

病院における医療ソーシャルワーカーも同様の仕事だ。またケアマネジャー(介護支援

相談援助の仕事には行政機関の仕事が多いが、行政機関で働くには公務員試験に合格し、地方公務員になる必要がある。地方公務員のなかでも、福祉分野で働くには社会福祉主事任用資格が必要なことが多い。この資格は大学などで社会福祉関連の3科目以上の単位を取得すれば誰でも取得できるが、国家資格の社会福祉士が誕生して以来、社会

福祉主任用資格の評価は低下している。そのため、これから福祉の仕事を目指す人は、社会福祉士の取得をお勧めしたい。

昨今、東京都や政令指定都市などで「福祉職」という専門職を募集する自治体が増えており、社会福祉士を受験資格とするところが多い。病院の医療ソーシャルワーカーの募集も社会福祉士を条件にしているところがほとんどだ。また、精神保健分野に精神保健福祉士という資格がある。精神障害者

の相談援助などを目的とした資格で、試験科目の約半分が社会福祉士と重なることもあり、こちらも併せて取得する人が多い。

社会福祉士を取得するには国家試験に合格する必要があり、受験資格は専門学校や短大、大学などで得られる。その教育カリキュラムが09年から大幅に拡充され、人体の構造から心理学、社会調査、就労、権利擁護など、より幅広い知識と技術、実習時間が必要となつた。介護・福祉ニーズの多様化や

高度化に対応した必然的な変更といえるが、心配の声も上がる。

「欧米の教育機関は6年が基本ですが、日本のソーシャルワーカーの養成教育は2～4年間での詰め込み教育だったところに、さらに盛り込む内容が増えた。学生は大変でしょう」（川村教授）。学校を選ぶ際にはそうした観点も含め、大学院進学なども視野に入ったほうがいいかもしない。

また、卒業後の進路としては、例えば大学

の福祉系学部で学んだ学生の2人に1人が一般企業に進んでいるといわれる。

「それも意味のあることだと私は思います。自動車、家電、食品といったメーカーや不動産会社、旅行会社などが福祉関連の商品を数多く出すようになっていますし、一般企業も今後はもっとユーバーサルな視点を強めていくでしょう。そういうなかで社会を変える原動力になってくれることも期待したいですね」（川村教授）

II 介護の仕事

高齢者介護だけでなく 障害者介護も今後の課題

介護の仕事は、施設介護と訪問介護の大きく2つに分けられる。いずれも高齢者や障害者の日常生活の支援をする仕事で、具体的には食事や着替え、入浴、排泄などのお手伝いをする。訪問介護の仕事は介護サービスとしてのほか、家事援助サービスとして調理や洗濯、掃除、買物なども行う。

高齢者介護であれば利用者は目上の人、

が求められる。

図2(10P)でも示したように、今後ますます介護職員は必要になつていくが、その対象は高齢者だけでなく障害者も含まれる。実

人生の大先輩だ。敬意をもち、できるだけ本人の力を生かしながら、その人がその人らしく人生をまつとうできるようにお手伝いをしていく。食事介助といつても、ただ食べてもらえばいいというものではない。食事は、介助されるほうにストレスが溜まるといわれる。「あれをもうちゅうと食べたい。でもいつもの人じゃないから頼めない」。相手にそんな気兼ねがあるということを想像して介助することが必要である。認知症の人は人生で最も輝いていた若い時代に戻る瞬間がある。そんな時は、介護者もちよとお芝居に付き合うこと

今後は介護福祉士が基本。 国家試験受験が義務に

資格・学校

訪問介護を行つ訪問介護員(ホームヘルパー)は、ホームヘルパー2級以上をもつていなければならぬ。一方、施設介護の職員は必ずしも資格がなければならないということはないが、実際の求人は介護福祉士やホームヘルパー2級以上を条件にするところが多いのが現状。では、将来介護の仕事を目指したい高校生はどうすべきかといえば、介護福祉士を取得することをお勧めしたい。理由は今後、介護福祉士を中心にして介護保険制度を組み立て

ていくと厚生労働省が明言しているからだ。

例えば現在、医療的ケアや認知症ケアができるような方向に介護福祉士の仕事の範囲を広げることが検討されている。それに合わせて、今後は「専門介護福祉士」といった上級資格が設置されていく可能性がある。これまで現場では介護福祉士もホームヘルパー取得者も同等とされていたが、これから

らは明確な差をつけていく方向だ。また、介護福祉士のレベル向上のため、すでに資格取得方法も変更になっている。これまで養成施設2年以上の課程を卒業すると、自動的に介護福祉士が取得できた。12年からは国家試験受験が義務づけられるようになる。

介護福祉士の受験資格は高校のほか専門学校、短大、大学で得られる。福祉専門

III 保健医療の仕事

福祉業界でニーズ高まる

医療ケアとリハビリ

福祉・介護の現場における保健医療の仕事は、日常的な健康管理とリハビリテーションの大きく2つに分けられる。

前者は主に看護師が担当している。看護師はほとんどすべての社会福祉施設や在宅サービスの事業所で働いている。利用者の健

康管理や病気の治療、衛生管理などを行い、同時に病状によっては近隣の病院に連絡を取りなど、外部の医療機関との連携も任せられている。看護師が不足している介護施

設が多く、求人は多い。その影響もあり、一般に施設内では最も待遇のよい職種のひとつになっている(9P図1)。

リハビリテーションを行うのは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など。理学療法士や作業療法士は身体の機能に障害をもつた人がその機能を回復できるように、様々なトレーニングでリハビリを促していく仕事。もともと障害者施設では配置が義務づけられている。同様に言語聴覚士は言葉や摂食、嚥下(飲み込むこと)、聴覚についての機能回復、視能訓練士は視覚の機能回復をはかる専門家。両方とも比較的新しい資格だが、医療業

界に加え、福祉業界でもニーズが高まっている。

こうした保健医療の専門職が老人施設などでも必要とされるようになつた背景には、長生きをするお年寄りが増えたという理由のほか、国の医療費抑制政策の影響で「治る前に退院を促される人が増えた」という事情もある。そのため病院の次の段階の老人保健施設や老人福祉施設で医療的ケアやリハビリテーションの必要性が高まっているのである。

資格・学校

国家資格合格のためには寝る暇もないくらい勉強

学校卒業生である前出の辻川社長は自身の学校選びをこう振り返る。

「私は専門学校の説明会に20校くらい願を出し、説明している先生に『先生はおむつ交換をしたことがありますか?』『どんな仕事がつらかったですか?』卒業生はどんなところで活躍していますか?」などとすく質問をしました。どれだけ真剣に養成しているかを知るために

学校卒業生である前出の辻川社長は自身の学校選びをこう振り返る。

には、それくらい聞いたほうがいいと思います」

介護福祉士取得後は、実務経験5年を経て、介護現場の相談援助業務を担うケアマネジャーに挑戦する人も多い。また、政府が進める「キャリア段位制度」(※)には介護分野も含まれている。「介護5段」といったかたちで、介護の技量を高めていく選択肢も出てくるかもしれない。

されること。いずれも医学という非常に幅広い分野を学んだうえで各々の専門知識を積み上げていく。養成校で学ぶ3年間あるいは4年間のうち、「寝る暇もないくらい」に勉強しなければならない時期が結構あると経験者の誰もが口をそろえる。そのため、途中で挫折する人も少なくない。入学前には学校や将来働く可能性のある職場を必ず見ておき、自分はその分野に進みたい気持ちが本当に強いか、覚悟があるかを確かめておきたい。

例えば義肢装具士という仕事がある。義手や義足を作る仕事で、目指す女性も増えている。しかし、自分の思い描いたイメージだけで学校に入り、辞めていく人がいるという。義肢装具士の仕事場はものづくりの現場だ。重いものも運ぶし、粉塵も舞う。入って初めてそのことを知り、向いていないと気がつく。そういう遠回りはできるだけ避けたほうがいいだろう。

福祉・介護業界の仕事例

III 保健医療の仕事

看護師 (24p)	★
保健師	★
理学療法士 (25p)	★
作業療法士	★
言語聴覚士	★
視能訓練士	★
義肢装具士 (27p)	★
音楽療法士 (26p)	

●主な職場

看護師はほとんどすべての福祉施設で活躍の場がある。理学療法士、作業療法士などのリハビリテーションの専門家は高齢者や障害者のための福祉施設で活躍している。音楽療法士はフリーランスとして様々な施設、病院と契約して活動する人が多い。

●関連資格

各国家資格	★
※音楽療法士はいくつかの認定団体がある。	

I 相談援助の仕事

児童福祉司 (19p)	★ ★
生活保護ケースワーカー (18p)	★ ★
精神保健福祉相談員 (17p)	★ ★ ★
ケアマネジャー (21p)	★ ★ ★
生活相談員	★
医療ソーシャルワーカー (16p)	★ ★
独立型社会福祉士 (20p)	★

●主な職場

相談援助の職種は、ほとんどすべての分野の福祉施設、市町村役場などで必要とされている。地方公務員となり、各現場で活躍しているケースも多い。上記のうち、ケアマネジャーは主に介護施設、医療ソーシャルワーカーは病院にいる。

●関連資格

社会福祉士	★
精神保健福祉士	★
社会福祉主事任用資格	★
ケアマネジャー(介護支援専門員)	★

IV 一般企業などの仕事

住宅メーカー	★ ★
食品メーカー	
家電メーカー	★
自動車メーカー	★
車椅子メーカー (28p)	★
旅行会社	★ ★
福祉研究者 (29p)	★

●主な職場

高齢者マーケットの広がりに伴い、福祉・介護の分野に参入する企業が増えている。商品としては、例えば高齢者対応の住宅、食品、家電用品、福祉車両、パッケージツアーや幅広い。今後も様々な業界で、多くの企業が参入していくことは間違いない。

●関連資格

ホームヘルパー(訪問介護員)	★
福祉住環境コーディネーター検定試験(R)	★
サービス介助士	★

II 介護の仕事

介護福祉士 (22p)	★
介助員	★
ホームヘルパー (23p)	★ ★ ★
サービス提供責任者 (23p)	★ ★ ★ ★

●主な職場

高齢者や障害者のための福祉施設やデイサービスセンター、訪問介護事業者などで働く。サービス提供責任者は、訪問介護事業のなかで利用者と契約したり、ホームヘルパーの調整・管理をする管理職。最近、介護の仕事は「ケアワーク」と呼ばれることが増えている。

●関連資格

介護福祉士	★
ホームヘルパー(訪問介護員)	★
サービス提供責任者	★
福祉用具専門相談員	★

*上記の「関連資格」は、仕事につくために必須のものに加え、あると有利なものなども含まれています。仕事と資格の関係について、詳しくは資格団体にお問い合わせ下さい。